

共同企画

港北区社会福祉協議会障害者セーフティネット分科会
港北区地域自立支援協議会

上映会

どうすればよかったか？



(C) 2024 動画工房ぞうしま

言いたくない 家族のこと

面倒見がよく優秀な姉に統合失調症の症状が現れた
父と母は玄関に南京錠をかけ、彼女を閉じ込めた

2026年 3 月 1 日 (日)

10 時 20 分～12 時 30 分

(開場 10 時 00 分)

上映終了後、意見交換会を実施予定(任意参加)

会場：港北公会堂 講堂

入場無料・参加申込制

定員：200名

【申込方法及び問い合わせ先】

〈申し込み開始日〉2026年1月20日

〈申込先〉港北区社会福祉協議会

下記のいずれかの方法でお申し込みください。

※電話もしくはFAXでお申し込みをされる場合には「名前」、「住所」、「電話番号」、「車いす利用の有無」、「当日配慮が必要なこと」、「意見交換会の参加希望」をお伝えください。

電話

045-547-2324

FAX

045-531-9561

二次元コード



バリアフリー字幕・音声ガイドのついた
バリアフリー上映です。

※音声ガイドにはUDキャストを使用します。



家族という他者との20年にわたる対話の記録

面倒見がよく、絵がうまくて優秀な8歳ちがいの姉。両親の影響から医師を志し、医学部に進学した彼女がある日突然、事実とは思えないことを叫び出した。統合失調症が疑われたが、医師で研究者でもある父と母はそれを認めず、精神科の受診から姉を遠ざけた。その判断に疑問を感じた弟の藤野知明（監督）は、両親に説得を試みるも解決には至らず、わだかまりを抱えながら実家を離れた。

このままでは何も残らない——姉が発症したと思われる日から18年後、映像制作を学んだ藤野は帰省ごとに家族の姿を記録しはじめる。一家そろっての外出や食卓の風景にカメラを向けながら両親の話に耳を傾け、姉に声をかけつづけるが、状況はますます悪化。両親は玄関に鎖と南京錠をかけて姉を閉じ込めるようになり……。

20年にわたってカメラを通して家族との対話を重ね、社会から隔たれた家の中と姉の姿を記録した本作。“どうすればよかったか？”正解のない問いはスクリーンを越え、私たちの奥底に容赦なく響きつづける。



分かりあえなさとともに生きる、
すべての人へ向けたドキュメンタリー。

注意事項

- ・できる限り公共交通機関をご利用ください。
- ・お車でお越しの際は、港北区役所駐車場をご利用ください。駐車場は有料です。障害者手帳をお持ちの方は減免されますので忘れずにお持ちください。
- ・申し込みは先着順とさせていただきますのでご了承ください。

ロビーにて区内作業所
製品を販売します。

港北区社会福祉協議会障害者セーフティネット分科会とは

「障がいの有無に関わらず支援を必要としている人が地域で安心して暮らすためのネットワークを作ること」を目的に日々活動しています。地域に向けて分科会としてお伝えできることを様々な形で発信し続けています。

港北区地域自立支援協議会とは

「港北区内で生活する区民1人1人が、障がいの有無に関わらず、安心・安全且つ充実した生活を送ることができる地域づくり」を目的に、関係機関・当事者や家族が地域における障害者等への支援体制に関する課題の共有や体制整備に取り組む場です。

共催：港北区社会福祉協議会、港北区役所